

1. ふるさとづくり大賞（旧：地域づくり総務大臣表彰）〔総務省〕

【趣旨】 全国各地で、それぞれの地域をより良くしようと頑張る団体、個人を表彰することにより、地域づくりへの情熱や想いを高め、豊かで活力ある地域社会の構築を図る。

【受賞歴】 R7 株式会社 TREE（三条市）〔ふるさとづくり大賞（総務大臣賞）〕

R6 つばめまんなか商店街（燕市）〔団体表彰（総務大臣賞）〕

R5 田村寛氏（新潟市）〔優秀賞（総務大臣賞）〕

特定非営利活動法人 越後妻有里山協働機構（十日町市）〔団体表彰（総務大臣賞）〕

【スケジュール（予定）】 照会（6月）→推薦〆切（7月）→決定（12月）→表彰式（1月）

2. 過疎地域持続的発展優良事列表彰〔総務省〕

【趣旨】 地域の自立と風格の醸成を目指し、過疎地域においてこれらの課題に取り組み、創意工夫により活性化が図られている優良事列表彰し、過疎地域の自立促進を図る。

【受賞歴】 R7 UKUU（佐渡市）〔総務大臣賞〕

R5 山古志住民会議/ネオ山古志村（山古志DAO）〔総務大臣賞〕

R2 粟島浦村〔総務大臣賞〕

【スケジュール（予定）】 照会（1月）→推薦〆切（3月）→決定（8月）→表彰式（10月）

3. 地域づくり表彰〔国土交通省〕

【趣旨】 創意と工夫を活かした広域的な地域づくりを通して、個性ある地域の整備・育成に活性化に顕著な功績があった優良事列表彰することによって、地域づくり活動の奨励を図ることを目的に実施。

【受賞歴】 R7 「まめ」新聞有志会（上越市）〔全国地域づくり推進協議会会長賞〕

R6 「まちあそび」と「まちこらぼ」で取り組むゆるいまちづくり（燕市）〔全国地域づくり推進協議会会長賞〕

R5 株式会社TREE（三条市）〔国土交通大臣賞〕

【スケジュール（予定）】 照会（4月）→推薦〆切（5月）→決定（10月）→表彰式（12月）

4. ふるさとイベント大賞〔（一財）地域活性化センター〕

【趣旨】 地域の個性を活かしたユニークなイベントのうち、特に優れた取組を全国に紹介することにより、地域のイベントの創造、発展、活性化を促し、個性豊かな地域社会を実現する大きな力となることを目的に実施。

【受賞歴】 R7 トチオノアカリ（長岡市）〔優秀賞（地域活性化センター会長表彰）〕

R4 わらアートまつり（新潟市）〔優秀賞（地域活性化センター会長表彰）〕

R1 狐の夜祭り（柏崎市）〔ふるさとキラリ賞（選考委員会表彰）〕

【スケジュール（予定）】 照会（7月）→推薦〆切（10月）→決定（12月）→表彰式（3月）

地域づくり表彰制度～事例紹介～



ふるさとづくり大賞



地方だからこそできる“やってみよう”をカタチに
— 地域をつなぐ人づくり —

地域経済部門

株式会社 TREE

DATA

事例名：地方だからこそできる“やってみよう”をカタチに
— 地域をつなぐ人づくり —
所在地：新潟県三条市仲之町2-15
連絡先：TEL 0256-55-1162
E-mail info@tree-sanjo.com
ホームページ：https://tree-sanjo.com

取組の概要

若者の「やってみよう」をカタチに「を」を合い言葉に、中心市街地拠点施設TREEの運営を軸に、地元商店街等と力を合わせ、魅力的な商品開発や伴走型の起業支援、各種イベントの開催等で来訪者を増加させるとともに若者のチャレンジの場をつくり、未来の地域を担う子どもたちに地元への誇りを醸成するなど、地域の活性化に寄与し、空き店舗の解消、自走型の商店街再生に取り組んでいる。

評価された点

- 「商店街と若者」というキーワードに振り切った数々の施策が顕著。小中高との連携や若者向け相談イベントなど広がりにも期待ができる。
- 簡単ではない商店街の活性化であるが地権者らと粘り強く対話しながら新しい価値を生みだし、人材の育成も行い、商店街に大きな変化を生みだしている点を評価。
- 商店街の地域拠点がきっかけとなり、新規出店の連鎖が起きている点を評価。
- 中心市街地拠点施設TREEの運営を軸に、地元商店街等と協力し、魅力的な商品開発や伴走型の起業支援、各種イベントの開催等で来訪者を増加させるとともに若者のチャレンジ

- の場をつくり、子どもたちのシビックプライド醸成や地域活性化に寄与。
- アニメファンを拠点ファンベースを開設し、アニメの聖地化に成功している。
- 若者の「やってみよう」を実現する拠点として、商店街や地域と連携し、商品開発や起業支援、各種イベントを通じて来訪者の増加と地域活性化を実現。空き店舗の活用や自走型の商店街再生に取り組む、地域の誇りを育む場として、未来を担う子どもたちへの影響も大きいと評価できる。若者のチャレンジを支援し、地域の持続可能な発展に寄与する好事例。

総務大臣賞

新潟県佐渡市

ユーケーユーユー
UKUU

『無限界集落』 やればできるっちゃ!



耕作放棄された畑の代替作物としてホップを栽培

審査講評

評価のポイント

▶リターン者を中心となり、近隣集落と共同した畑の維持管理を行っている。さらに、クラウドファンディングを通じた新潟県内外の関係人口、また、地元の新潟大学、新潟県樹田みらい応援団などとも連携して、活動の輪を拡大している。

審査委員のコメント 地域内外の仲間の輪を広げ、持続可能な畑田と集落へ

中心となっているリターン者が、熱い思いを持って一生懸命活動していることで、地域住民、そして地域外の関係人口が呼応し、仲間が増え続けています。「無限界集落 やればできるっちゃ!」というフレーズからも伝わってくるように、前向きな姿勢で活動を楽しんでいることが特徴で、当初目的の伝統的景観である畑田を守ることに加えて、移住者も呼び込み、結果として集落の人口増にもつながった点は、他地域にも参考になる好事例だと考えられます。



地域づくり表彰制度～事例紹介～

全国地域づくり推進協議会会長賞 (地域活性化の観点で優れた取組) 2事例 (全国地方会典実行コード賞)

「まめ」新聞有志会 じょうえつし (新潟県上越市)

～ ミニ新聞『まめでやったけえ』の発行と お弁当屋食会 ～

●活動の概要

ミニ新聞『まめでやったけえ』(方言で「お元気でしたか?」の意味)は、冬には4mもの雪で閉ざされる山間地区の住民有志が、集落の日々の出来事や関心事などを綴ったもの。

2011年の東日本震災の不安な気持ちを少しでも明るくしようと発行をはじめた。年に3～5本のペースで発行した記事を10年分の記事をまとめた冊子も刊行しており、現在、第2集も刊行。冊子は地区の人数を大きく超える250部を発行し、地区を訪れる人などに読んでもらっている。

10年以上もの蓄積の冊子化により、思い出の写真や亡くなった方も思い出すきっかけとなり、皆で支え合って生きる元気が湧いてくる。また冊子はこれきっかけに外の方が集落のファンになってくれている。



有志会3人による活動の様子



お弁当屋食会の準備

●選定理由

人と人とを繋ぐ取組としてミニ新聞を発行し、伝統行事の由来や、フラ靴の編み方、地元の芋煮の作り方なども新聞記事にするなど、日々歳々失われていく地域の文化や記憶の定着手段としても機能している。

また、地区の食文化を活かした栄養バランスの取れたお弁当作りの場を作り、地区の孤立するお年寄り等を呼び込むなど、今後の孤立対策の参考になる取組も行っている。

執筆者に地域外の人を取り入れ、交流のきっかけとしている点も優れている。
他地域からもファンが出てくる契機にもなっており、地域の持続可能性の拡大にも資している。

山村集落や豪雪地帯によらず、今や都市圏のニュータウンや団地などでも過疎化・高齢化、そして孤立化が進むなかで、身近な地域の皆がいかにして結びつけ、楽しく、生き生きと、助け合いながら暮らしていくのか、その手段や手法の開発や導入・実装がいよいよ問われる時代にさしかかっており、大いに参考になる事例と言える。

QR
コード

■問合せ先 ■ 上越市 地域政策課 ☎ 025-520-5673

トチオノアカリ2024

9/28sat. 9/29sun.
17:30～21:00

主催 トチオノアカリ協議会 協賛 新潟市/長岡市地域の活性化向上事業 協力 とうちのまむい委員会